

安倍首相の国会演説はどう変化したか?その2

～5回の国会演説の比較検討～

橋 本 武

(一般財団法人日本開発構想研究所 研究主幹)

筆者は、第2次安倍内閣(2012年12月～)発足間もない時期に、安倍総理の国会演説について、第1次安倍内閣、野田内閣のそれらと比較検討した小論を、この日本開発構想研究所のホームページに掲載した(http://www.ued.or.jp/media/34/20130317-abe_text_minimg_4.pdf)。

今回は、その続編として、第2次安倍内閣で行われた5回の国会演説を対象にして、5回の間でどのような変化が見られるのかを検討した。

対象とした演説は次の5回であり、内訳は、施政方針演説が2回、所信表明演説が3回である。

2013年1月28日 所信表明演説

2013年2月28日 施政方針演説

2013年10月18日 所信表明演説

2014年1月24日 施政方針演説

2014年9月29日 所信表明演説

同じように見える国会演説でも施政方針演説と所信表明演説では性格・様相がやや異なる。施政方針演説が国政全般について語られるのに対して、所信表明演説は特に重要な幾つかの課題に限定して語られることが多い。このため、施政方針演説の方が所信表明演説よりも長くなる傾向がある。この特徴は、第2次安倍内閣の5回の演説でも見られる。

顕著な特徴を検討する限りでは、施政方針演説と所信表明演説の違いを考慮する必要はないが、微妙な点を検討する際には、両者の違いを勘案する必要が生じる。

分析には、樋口耕一氏(立命館大学)が開発され、一般に公開されている内容分析(計量テキスト分析)もしくはテキストマイニングのためのフリーソフトウェア KH Coder(<http://khc.sourceforge.net/>)を使用した。

なお、最初にお断りしておくが、本稿は、あくまでも演説の形式的な特徴を比較したものであり、演説の良否を比較する意図はまったくない。また、本稿のような簡便な方法では分析結果の確実性・厳密性にもかなりの問題があるだろう。そういった様々な留意・限界の下での内容であることをご理解願いたい。文中煩雑になるので、敬称は省略した。

名詞の出現状況

最初に名詞等（KH Coder の名詞、サ変名詞、地名、組織名、人名、固有名詞）の出現状況を見る。表 1 は、出現数の上位 20 位までの単語、その出現数、出現率を、5 回の演説別に記載したものである。

表1 名詞等の出現状況

順位	13年1月 所信表明			13年2月 施政方針			13年10月 所信表明			14年1月 施政方針			14年9月 所信表明		
	名詞等	出現数	出現率	名詞等	出現数	出現率	名詞等	出現数	出現率	名詞等	出現数	出現率	名詞等	出現数	出現率
1	経済	16	2.49	世界	34	2.37	日本	20	2.71	日本	44	2.38	日本	17	1.84
2	危機	14	2.18	日本	30	2.09	世界	17	2.30	世界	27	1.46	皆さん	14	1.52
3	成長	11	1.71	我が国	18	1.25	成長	12	1.63	皆さん	17	0.92	社会	10	1.08
4	社会	10	1.56	社会	15	1.04	制度	11	1.49	経済	17	0.92	世界	10	1.08
5	政策	8	1.24	皆さん	14	0.97	保障	10	1.36	地方	17	0.92	災害	8	0.87
6	再生	8	1.24	国際	14	0.97	福島	10	1.36	成長	17	0.92	若者	8	0.87
7	日本	8	1.24	関係	13	0.90	皆さん	9	1.22	支援	14	0.76	女性	8	0.87
8	国民	7	1.09	地域	12	0.84	経済	9	1.22	社会	13	0.70	全国	7	0.76
9	復興	7	1.09	改革	12	0.84	改革	8	1.08	保障	12	0.65	改革	7	0.76
10	我が国	6	0.93	経済	11	0.77	社会	7	0.95	沖縄	12	0.65	規制	7	0.76
11	外交	6	0.93	外交	10	0.70	実行	7	0.95	改革	11	0.60	企業	6	0.65
12	被災	6	0.93	技術	10	0.70	意志	6	0.81	研究	11	0.60	経済	6	0.65
13	テロ	5	0.78	国民	10	0.70	国家	6	0.81	実現	11	0.60	戦略	6	0.65
14	国家	5	0.78	教育	10	0.70	国民	6	0.81	対策	11	0.60	地域	6	0.65
15	政府	5	0.78	成長	10	0.70	政策	6	0.81	技術	10	0.54	地方	6	0.65
16	戦略	5	0.78	保障	10	0.70	戦略	6	0.81	外国	9	0.49	内閣	6	0.65
17	未来	5	0.78	制度	9	0.63	再生	6	0.81	企業	9	0.49	農業	6	0.65
18	突破	5	0.78	仕事	9	0.63	我が国	5	0.68	地域	9	0.49	被害	6	0.65
19	拉致	5	0.78	課題	8	0.56	企業	5	0.68	拡大	9	0.49	支援	6	0.65
20	家族	4	0.62	企業	8	0.56	未来	5	0.68	確保	9	0.49	外国	5	0.54

注1：出現率は、当該名詞等の出現数を全名詞等の合計出現数で除したものの（百分率表示）

注2：21位以下で20位と同回数の単語は省略。

5回の演説を比較すると、13年2月、13年10月、14年1月の3回の演説は比較的似ているが、最初の13年1月の所信表明と5回目の14年9月の所信表明は、この3回の演説とやや異なることが分かる。

13年1月演説の特徴は、以後の演説では頻出する「世界」「日本」「皆さん」の順位が低く、特に「世界」「皆さん」は20位以内には存在しないことである。この点から見ると、13年1月演説の時点では、まだ安倍演説のトーンが決まっておらず、13年2月演説をもってその後継続する安倍トーンが決まったように思われる。

一方、14年9月演説の特徴は、「経済」「成長」の順位が大きく低下し、その代わりに他の4回の演説では20位以内になかった「若者」「女性」が上位に登場したことである。この特徴が一時的なものか、継続するのかは現時点では知りようもないが、敢えて言えば演説の重点が経済政策的側面から社会政策的側面に移行したようにも考えられる。なお、「災害」の順位も高いが、これは演説直前の14年8月に発生した広島市の土砂災害の影響が少なくないので1回限りの現象かも知れない。

様々な単語の中でも、「日本」は、我が国の総理大臣の国会演説においては極めて重要な意味を持つ単語であると思われる。事実、5回の演説で常に出現数のベスト10に入っている。

そこで、この「日本」の用法上の特徴を見ることにする。このため、「日本」についてコンコードダンス検索を行い、その結果についてコロケーション統計をとった。この作業は、どういう単語が「日本」との結びつきが強いかを調べるものである。結果が表2であるが、スコアは結びつきの強さを示し、スコアの値が大きいほど強いことを意味する。スコアの大きな単語とは、「日本」と近親的に使用された単語と見ていいだろう。

表2 「日本」についてのコロケーション統計

順位	13年1月 所信表明		13年2月 施政方針		13年10月 所信表明		14年1月 施政方針		14年9月 所信表明	
	単語	スコア	単語	スコア	単語	スコア	単語	スコア	単語	スコア
1	経済	3.20	経済	2.50	世界	1.67	ブランド	2.00	広がる	1.00
2	強い	1.00	成長	2.00	強い	1.00	新た	1.53	根室	1.00
3	再生	0.75	世界	1.65	経済	1.00	成長	1.53	社会	1.00
4	期待	0.50	外交	1.00	始める	1.00	世界	1.28	美しい	1.00
5	国益	0.50	輝く	1.00	成長	1.00	イノベーション	1.03	今	0.70
6	司令塔	0.50	強い	1.00	中	1.00	自衛隊	1.03	成長	0.67
7	創る	0.50	固有	1.00	明治	1.00	外交	1.00	活躍	0.50
8	未来	0.50	新た	1.00	力強い	0.70	輝く	1.00	隅々	0.50
9	確か	0.33	創る	1.00	可能	0.58	経済	1.00	今月	0.50
10	危機	0.33	力強い	1.00	今や	0.53	専門	1.00	支える	0.50

注：11位以下で10位とスコアが同値の単語は省略。

表2を見ると、14年9月の所信表明以外の4演説はいずれも、「経済」「成長」「強い」とのスコアが大きいですが、この特徴は14年9月の演説では見られなくなったことが分かる。この点からも、14年9月の演説は、それまでの演説から基調が変化しているものと考えられる。

また、表2からは、14年9月演説では、スコアが大きい単語間に統一的な傾向が見出だしにくいことが分かる。

実際の演説文で「日本」の用法を見ると、例えば、前回の所信表明演説である13年10月演説では、「被災地の復興なくして、日本の再生なし」、「皆さん、しっかりと結果を出して、日本が力強く成長する姿を、世界に発信していこうではありませんか」といった、復興する日本、成長する日本的な用法が多い。これに対して、14年9月演説では、「日本の中に眠る、ありとあらゆる可能性を开花させることで、まだまだ成長できる」といった13年10月演説的な用法もあれば、「伝統ある故郷を守り、美しい日本を支えているのは、中山間地や離島を始め、地方にお住まいの皆さんです」といった「美しい日本」的な用法も見られるのである。

なお、14年9月演説では「根室」のスコアが大きいですが、これは、「地元の漁協や商工会議所の皆さんによる一体となった売り込みが、『根室のサンマ』を世界ブランドへと発展させました。『北海道の根室』から『日本の根室』へ」というフレーズによる影響である。

本稿のように1演説だけを対象としたコロケーション統計では、出現単語数が少ないためにちょっとしたフレーズの影響が小さくない。この点には注意が必要である。

動詞の出現状況

次に動詞の出現状況について見る。結果は表 3 である。

表3 動詞の出現状況

順位	13年1月 所信表明			13年2月 施政方針			13年10月 所信表明			14年1月 施政方針			14年9月 所信表明		
	動詞	出現数	出現率	動詞	出現数	出現率	動詞	出現数	出現率	動詞	出現数	出現率	動詞	出現数	出現率
1	取り戻す	6	3.53	創る	17	4.66	進める	8	4.49	進める	19	4.94	進める	9	4.71
2	失う	4	2.35	進める	16	4.38	向ける	6	3.37	創る	19	4.94	向ける	8	4.19
3	言う	3	1.76	持つ	14	3.84	進む	5	2.81	向ける	14	3.64	活かす	6	3.14
4	向ける	3	1.76	向ける	10	2.74	創る	5	2.81	行う	12	3.12	始める	6	3.14
5	取り組む	3	1.76	守る	9	2.47	果たす	4	2.25	始める	12	3.12	目指す	6	3.14
6	申し上げ	3	1.76	上げる	8	2.19	行く	4	2.25	持つ	12	3.12	取り組む	5	2.62
7	続ける	3	1.76	目指す	8	2.19	始める	4	2.25	取り組む	9	2.34	超える	5	2.62
8	働く	3	1.76	求める	6	1.64	守る	4	2.25	守る	8	2.08	生まれる	4	2.09
9	感じる	2	1.18	考える	6	1.64	目指す	4	2.25	目指す	8	2.08	行う	3	1.57
10	貫く	2	1.18	始める	6	1.64	応える	3	1.69	支える	5	1.30	成し遂げる	3	1.57

注1：出現率は、当該名詞等の出現数を全名詞等の合計出現数で除したもの（百分率表示）

注2：11位以下で10位と同回数の単語は省略。

安倍演説では、「創る」「進める」がよく使用される動詞である。この2つの動詞から見ても、名詞の場合と同様の変化が見られる。すなわち、①13年1月の所信表明には、その後の安倍トーンがまだ見られないこと、②13年2月から14年1月の3つの演説にはほぼ一貫したトーンが見られること、③そのトーンは14年9月の演説で変化を見せること、の3つである。14年9月演説の動詞の変化は、名詞の変化ほどには明瞭ではない。しかし、「進める」はトップに残ってはいるものの、「創る」は出現数2で12位に落ちており、変化を感じさせる。敢えて深読みすれば、「創る」段階から「進める」段階に移行したとも考えられる。

演説の構造

ここまで、単語レベルでの検討を行ったが、演説の構造全体ではどのような変化が見られるのだろうか。

このため、多次元尺度構成法を用いて単語間の関係を検討する。多次元尺度構成法は、分類対象物の関係を低次元空間における点の布置で表現する手法であり、似たものは近くに、異なつたものは遠くに配置される(Wikipedia)。したがって、原点近くに布置される単語は、演説の中心になる単語であると理解できる。本稿では、名詞等を対象に、布置される単語数がいずれも概ね100になるように出現数の多い単語から選択した。

結果は、図1から図5であり、最後のページにまとめて掲載した。円の大きさは出現数の大きさを表し、関係が近いものは同色で表示し、全体が7クラスターになるように色分けしている。

5回の演説の間に、微細な差異はあるものの、基本的には同一構造をなしている。すなわち、いずれの演説も比較的はっきりとした、単一のクラスターで構成される中心部が存在

し、中心部と周辺部との違いが明瞭であるという、「中心・周辺構造」をなしているのである。

一方、微細な差異をあえて指摘すれば、14年9月演説において、中心部の単一構造がやや不明瞭になっているように見えることである。「世界、若者、災害等」を中心としつつも、「女性、活用等」、「被害、努力等」、「経済、戦略、内閣等」といった複数の異なるクラスターもそのすぐ近傍に位置しているからである。

以上の結果をまとめると、安倍総理の国会演説は、13年2月の施政方針演説以降、共通するトーンで推移してきたが、先日行われた14年9月の所信表明演説で、それまでのトーンから変化を見せたと言える。

それでは演説の内容が具体的にどう変化したのか。これを本稿のような演説の形式面だけの簡単な分析結果だけから即断することは無謀であるが、敢えて言えば、経済政策的側面が減少し、他の政策的側面（広義の社会政策的側面）が増加したように思われる。

最後に、参考として、演説別の目次構成を掲載しておく。

参考 演説別目次構成

13年1月 所信表明	13年2月 施政方針	13年10月 所信表明	14年1月 施政方針	14年9月 所信表明
はじめに	はじめに	はじめに	はじめに	災害に強い国づくり
経済再生	被災者の皆さんの強い自立心と復興の加速化	復興の加速化	創造と可能性の地・東北	復興の加速化
震災復興	経済成長を成し遂げる意志と勇気	成長戦略の実行	経済の好循環	地方創生
外交・安全保障	世界一安全・安心な国	強い経済を基盤とした社会保障改革と財政再建	社会保障の強化	地球儀を俯瞰する外交
おわりに	暮らしの不安に一つひとつ対応する政治	現実を直視した外交・安全保障政策の立て直し	あらゆる人にチャンスをつくり出す	成長戦略の実行
	原則に基づく外交・安全全保障	おわりに	オープンな世界で日本の可能性を活かす	おわりに
	今、そこにある危機		イノベーションによって新たな可能性を創り出す	
	おわりに		地方が持つ大いなる可能性を開花させる	
			安心を取り戻す	
			積極的平和主義	
			地球儀を俯瞰する視点でのトップ外交	
			おわりに	

本稿は、筆者の個人的見解です。

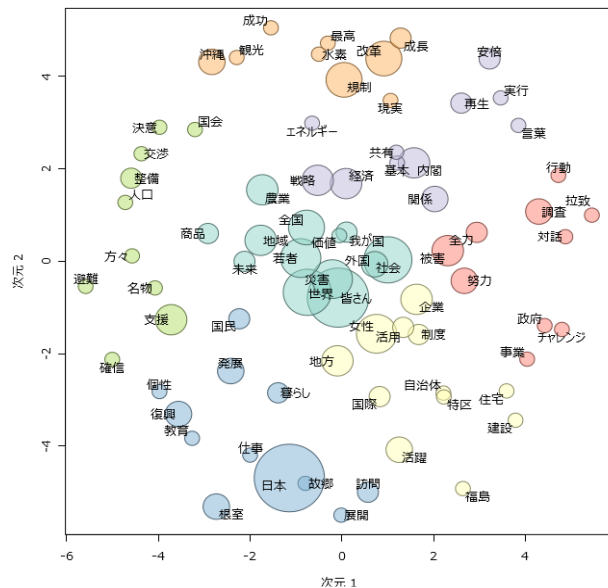
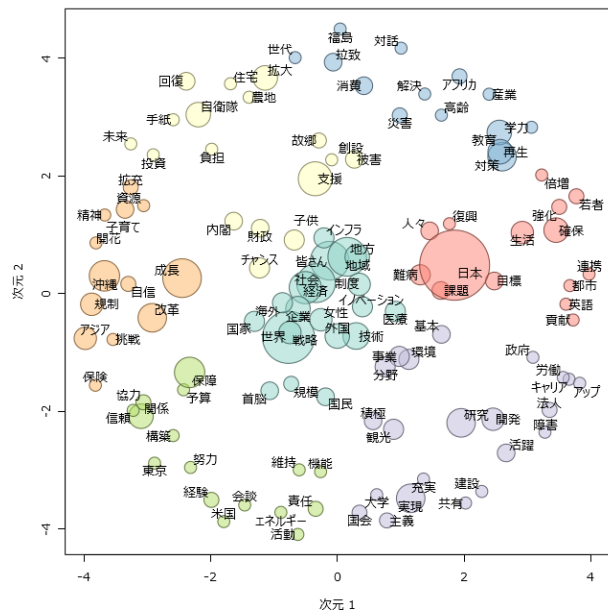
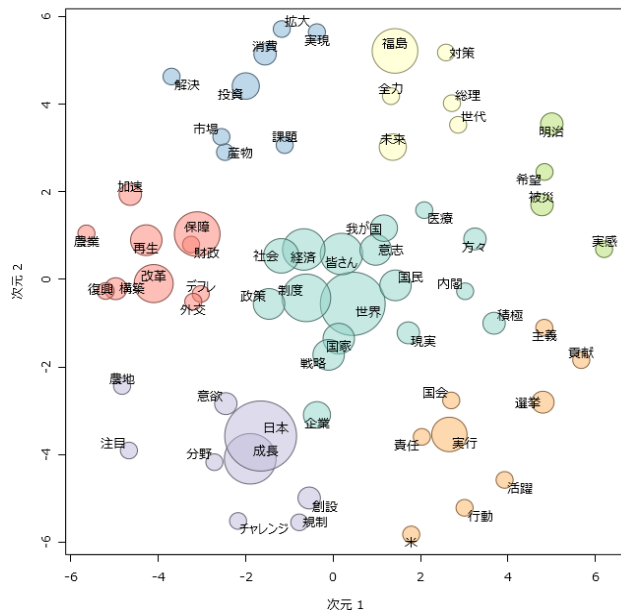
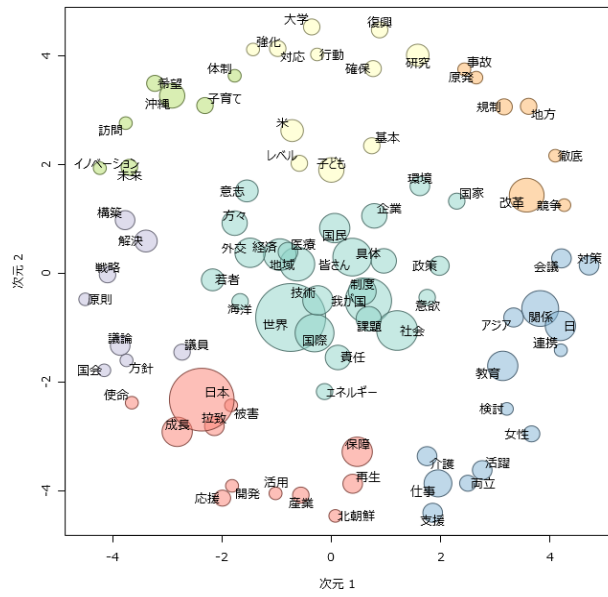
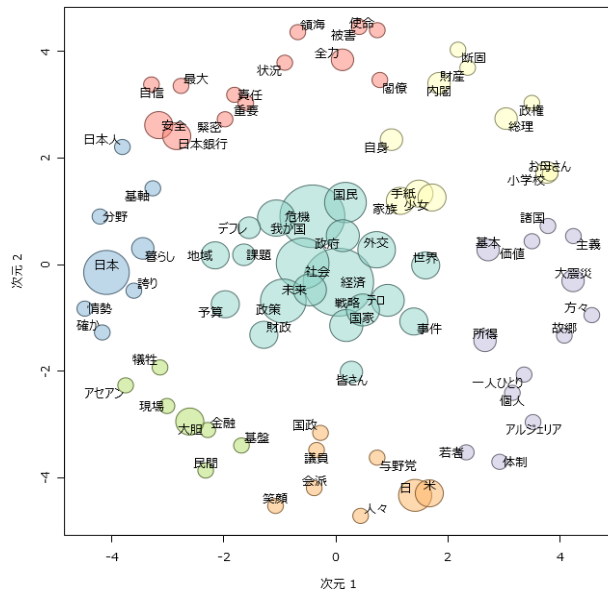


図1 13年1月 所信	図2 13年2月 施政
図3 13年10月 所信	図4 14年1月 施政
図5 14年9月 所信	